

★ 寒いですね～。春よ来い！はやく来い！

年度末を迎え、会員の皆様におかれましてはお忙しい時期かと存じます。寒い季節もそろそろ終わりに近づいてきました。(花粉症には困るのですが…)春の到来が待ち遠しい今日この頃です。

さてこのニュースレターにて、今年度最後の発行となります。今回のニュースレターでは、「支部長・副支部長改選」「事務局の変更」「支部会費納入」「HP 開設」など、**何点か重要なご連絡がありますので注意してお読みください**。東京支部が設立されて3年が経過し、来年度は新たな体制にて運営していくこととなります。来年度以降も、皆様方から多くのご協力を賜り円滑な運営を目指していきます。よろしくごお願い申し上げます。

★ 目次

1. 東京支部主催資格更新第2回研修会に参加された皆様へ(お詫び)
2. 支部長、副支部長の改選について ★ 重要 ★
3. 東京支部事務局の変更について ★ 重要 ★
4. 東京支部会費の納入について ★ 重要 ★
5. 東京支部ホームページの開設に向けて
6. 2008年度 第2回 資格更新研修会 報告
7. 2008年度 合同研修会(東京・神奈川・茨城・栃木・群馬支部) 報告
8. 東京支部役員会議事略録
9. 2009年度 第1回東京支部資格更新研修会および総会 (予定)
10. 事務局だより

1. 東京支部主催資格更新第2回研修会に参加された皆様へ

—研修記録印の年度訂正について—(お詫び)

昨年12月7日(日)に実施しました、「東京支部主催資格更新第2回研修会」の午前の部に参加された会員の皆様につきまして、一部の方の研修記録ノートの研究記録印の年度が「2006」年になっておりました。該当される方におかれましては、ご自身におかれまして「2006」を「2008」に修正していただきたくごお願い申し上げます。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

2. 支部長、副支部長の改選について ★ 重要 ★

日本臨床発達心理士会東京支部の支部長および副支部長につきましては、本年度をもちまして3年間の任期を満了致します。つきましては、2009年度日本臨床発達心理士会東京支部総会（2009年5月31日開催予定）におきまして支部長、副支部長の改選を行います。

改選は内規に基づき支部長候補者および副支部長候補者を選定した後、支部総会において承認するという手続きにて実施いたします。なお東京支部役員（支部長指名による選出）につきましても、2008年度末をもって3年間の任期を満了した役員については解任となります。

あらためて総会等のご案内をさせていただきますが、会員の皆様におかれましては、来年度の総会へご出席（または委任状の提出）を賜りますようお願い申し上げます。

3. 東京支部事務局の変更について ★ 重要 ★

東京支部設立は来年度で設立4年目を迎え、新たな体制にて運営をまいります。2009年度（4月1日）より、東京支部事務局および連絡先は下記のように変更いたします。会員の皆様におかれましては、ご周知賜りますようお願い申し上げます。

■東京支部事務局(長) :	東 敦子
■事務局連絡先 :	〒125-0054 東京都葛飾区高砂 7-26-3 のぞみ発達クリニック 気付
■メールアドレス :	jocdptokyo@yahoo.co.jp

なお、住所の変更や所属の異動等についてのご連絡は、2009年3月31日までは現在の事務局（東京学芸大学 澤）までお申し出ください。2009年4月1日以降の手続きにつきましては、上記の新事務局までお申し出ください。なおご連絡につきましては、郵送もしくはメールにてお願いいたします。（電話での即時の対応が難しいこと、またFAXでの送信は「誤送信」が多発したことにより、いずれもご遠慮いただいております。）

4. 東京支部会費の納入について ★ 重要 ★

過日「日本臨床発達心理士会」からご案内がありましたように、支部会費の納入につきましては2009年度より各支部への直接納入になります。現在、会費納入方法の変更につきまして準備を進めておりますが、諸々の手続きの変更などに少々時間を要する状況です。東京支部会員の皆様には、支部会費納入の方法につきまして次年度のNL等にてあらためてご連絡させていただきますので、しばしお待ちください。

5. 東京支部ホームページの開設に向けて

東京支部では、会員の皆様向けホームページの開設を予定しております。ホームページでは、東京支部主催の各研修会のご案内、東京支部ニューズレター、その他の情報を掲載する予定です。現在試作中ですので、正式に開設できる準備が整いましたら、ご報告させていただきます。

なおホームページの開設に伴い、これまで会員の皆様に郵送にて送付しております「各種研修会の案内」ならびに「東京支部ニューズレター」につきまして、「原則として、ホームページからのダウンロード」をお願いすることを検討しております。来年度の東京支部会員数は、約500名に達することが想定されます。ダウンロードという方法は、会員数の増加に伴う事務作業量の軽減、印刷・郵送費用のコストダウン、「郵送未着」を減らすこと、を目的としております。この点につきましてもあらためてご案内をさせていただきますが、多くの会員の皆様からご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

6. 2008年度 第2回資格更新研修会 報告

■ 日 時：2008年12月7日（日）

■ 場 所：東京学芸大学 講義棟 N棟4階 N410教室

■ 研修会（午前の部） 報告

テーマ：K式発達検査の実施と応用 ー発達障害への支援を考えるー

講 師：清水里美先生（京都国際社会福祉センター K式発達検査研修会）

内 容：保健福祉センターや療育機関で広く使われている新版K式発達検査について、基本的な項目の説明から、結果をどう支援に活かすかという点にまで及ぶ幅広い内容の研修であった。講師の清水里美氏は、新版K式発達検査の制作段階から関わってこられ、項目は正規分布を示した行動を抽出して決定されたことや記載されている通過年齢は50%の子どもが通過する年齢であることなどにも言及された。1葉～2葉（生後すぐ～1歳すぎ）3葉～4葉（1歳半健診～3歳健診周辺）の各項目について、ビデオを交えて解説が行われた。新版K式発達検査は、子どもの行動観察を通して発達を直接みていく検査であり、ベースになる独自の理論があるわけではないが、雑多な項目を通して流れる行動の基盤となる認知やコミュニケーション能力を検討することを通して、発達の様子をみていく、また、その項目が形成される上で必要な様々な能力を想定して考えていくことが大切である。反応については、できる・できないのみを考えるのではなく、生活背景まで包括して、それぞれの項目の意味を考えることが大切であり、そうすることによって、新版K式発達検査の結果を有意義な支援につなげていくことができる。

報告者：黒田

■ 研修会（午後の部） 報告

テーマ：行動問題のアセスメントと支援

講 師：佐竹真次（山形県立保健医療大学）

内 容：不適切行動は、周囲からのたしなめがその意図とは逆に作用することによって増大していくことがわかりやすく図示された。背景事象、直前事象、結果事象から捉えられる不適切行動の意味として「注目要求」「物や事態の要求」「逃避」「防衛」の4つが提示され、4つそれぞれにあてはまる、支援事例が述べられた。対象児・者の発達特性や知的レベル、情緒面の発達などのアセスメントを前提とした、不適切行動の機能的アセスメントに基づく支援は、情動調整をも含めた広い

範囲に適用できるものであることが示された。親のほめ行動の形成、広汎性発達障害児の愛着形成、LD児への学習支援からの問題行動改善、など、幅広い応用例が述べられ、行動分析の考え方が様々な支援に有効であることがうなずける内容であった。

報告者：宇賀神

■アンケート結果

参加者： 午前の部 84名 午後の部 67名
回収数： 54 (東京支部 49、他支部 5)
結果： 数値結果のみ、数字は回答人数 (%)

	午前の部	午後の部
1. 非常に満足	25 (46.2%)	24 (55.8%)
2. おおむね満足	27 (50.0%)	18 (41.9%)
3. やや不満	2 (3.8%)	1 (2.3%)
4. 不満	0	0

7. 2008年度 合同研修会（東京・神奈川・茨城・栃木・群馬支部） 報告

■日 時： 2009年1月18日(日)

■場 所： 上智大学四谷キャンパス12館 1階 102番教室

■テーマ： 脳科学・遺伝学的研究における最新情報から考える自閉症への支援

■講 師： 畠中雄平 先生(高知県立療育福祉センター長)

■報 告： 今回の研修は、2004年度、2005年度に行われていた、関東支部ブロック研修会での会員同士のネットワークや情報・意見交換の発展を願い、東京支部を中心に神奈川・茨城・栃木・群馬の各支部の協力により研修会の実施となりました。

研修当日は、あいにくの曇り空で、寒い朝となりましたが、多くの会員が参加され、総勢で142名の出席となりました。

研修会は、高知県立療育福祉センター長の畠中雄平先生をお迎えし、「脳科学・遺伝学的研究における最新情報から考える自閉症への支援」というテーマで、ご講演をいただきました。

講演は、事前に詳細なレジメが準備され、「自閉症スペクトラムの神経生物学—最近の知見からという」内容で、医師としての立場から最新情報をご紹介いただき、今後の自閉症への支援の方向性などについて、パワーポイントを使用し、具体例を通してご講義いただきました。

まず、自閉症スペクトラム(ASD)に関する国際診断分類ならびに、疫学研究による出現率について話されました。Fombonneら(2006年)の調査によると、自閉症スペクトラムの出現率は、6.5/1000の割合であるとのことでした。次に、脳の構造と機能についての研究から、現時点における4つの重要な知見を紹介されました。第一に、脳の大きさの研究では、MRIや死後脳などによると、全年齢で脳のサイズが標準より大きく、最も大きな差は児童期に見られるとのことでした。脳のサイズが大きいことは、中枢神経系の成長の調整不全、たとえば過成長、あるいは、pruning(脳機能の刈

り込み)がうまく行われていないことの結果ではないかと指摘されました。第二に、神経系の成長の調整についての研究からは、細胞遊走障害、樹状突起の減少、小脳のプルキンエ細胞の減少が見られるとのことでした。第三に、神経伝達物質の研究では、神経細胞の成長に関連した、タンパク質の異常が多いこと、(セロトニン、ドーパミン、オキシトシン等)を紹介されました。第四に、特定の脳部位に関する研究から、小脳、側頭葉(辺縁系を含む)、前頭葉の各機能の研究を紹介されました。

最後に、まとめに替えて、包括的な仮説を、心理学的な機能の知見を取り入れて「社会性に関わる脳の障害仮説」、「小脳⇄前頭葉の障害仮説」「中枢神経系の発達の障害仮説」の3点で紹介されました。

講演会は、休憩時間と質疑応答を含み、3時間にわたり行われました。また先生が、あくまでも医学的、統計学的な仮説である点を再三述べるところに、臨床家としての真摯な態度を感じました。今回の講演会は、脳科学の視点から、あらためて自閉症をとらえなおすよい機会になりました。

私たち、臨床発達心理士の発達の観点に最新の医学の知見が重要であることを確認しながら、合同研修会で知り合った仲間同士の会話も弾み、帰路へとつきました。次回も何らかの形で合同研修会が行われることを期待します。

報告者文責 星 茂行(茨城支部)

8. 役員会議事略録

■日 時：2009年2月8日(日) 13:00～15:00

■場 所筑波大学大塚キャンパス

■出席者：竹谷、須田、菊地、松村、仲村、澤

I. 報告・確認事項

1. 2008年度合同研修会の出席人数、内容等について報告があった。
2. 特別支援教育ネットワークの進捗状況等について報告があった。
3. 2008年度の会計報告(概算)の報告があった。
4. 事務局移転に関する進捗状況について報告があった。

II. 審議事項

1. 文京区巡回相談の実施状況について報告があり、来年度の実施体制等について協議を行った。
2. 都立永福学園ならびに都立高等学校巡回相談に関する報告があり、来年度の実施体制等について協議を行った。
3. 次期役員体制について、現役員の継続に関する確認が行われ、役職体制について協議を行った。
4. 次期新役員の候補者について意見交換を行った。
5. 2009年度第1回資格更新研修会について、日程、内容、講師依頼について協議を行った。

9. 2009 年度 第 1 回東京支部資格取得研修会および総会（予定）

2009 年度 第 1 回の東京支部主催資格更新研修会および総会は、下記の日時・場所を予定しております。

詳細は、来年度のニューズレター第 1 号にてご案内いたします。

日時：平成 21 年 5 月 31 日(日) (予定)

場所：筑波大学大塚キャンパス (予定)

内容：午前の部 (9:30~11:30) 「臨床発達心理士としての倫理」(仮テーマ)

東京支部総会(11:30~12:00)

午後の部 (13:00~16:00) 「最新の認知アセスメントと指導」(仮テーマ)

※上記の日時、場所ならびに内容については変更する場合がありますので、来年度のニューズレターにて必ずご確認ください。

10. 事務局だより …再びお願いします。

■「住所変更等」のご提出をいただいた会員の皆様。ご協力ありがとうございました。心理士会本部との連絡等が不十分で、何名かの会員の方より「連絡が来ない」等の声が寄せられました。ご迷惑をおかけし本当に申し訳ありません。

■なお・・・以下の会員の方々への郵送物が返却されてきます(2008 年の 10 月末現在です)。ご存じの方は、その方に「住所変更届を出した方がよいですよ。」と一言お声かけ下さい。また近隣に会員の方がいる場合は、お互いに郵送物に関する情報交換(「私のところには届いているけど、あなたのところはどうか?など・・・)をしていただくとありがたいです。住所変更された方(他支部へ異動された方、他支部から異動してきた方を含む)は出来るだけ速やかに、変更届をご提出下さいますようお願い申し上げます。

伊藤 仁 五味こずえ、大津麻衣子 坂口博美 朝倉知香 岩坪逸子 吉野加容子 上村佳世子
(順不同、敬称略)

■来年度より、東京支部の事務局が変わります。これまでの事務的対応につきまして、会員の皆様にいろいろとお手数やご不便をおかけすることもあったかと存じます。東京支部には、全国の臨床発達心理士の約 4 分の 1 にあたる 500 名弱の会員が所属しており、より円滑な支部運営の方法について現在検討を進めております。このたびの変更に際しましては、会員の皆様のご協力を賜ることも多いかと存じますが今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

東京支部ニューズレター-2008 年度第 3 号(通巻 7 号) 2009.2 発行
編集:田島洋介(NL 担当)